

新 100 校プロジェクト 北海道・東北地区活用研究会 (兼 10 月 ACE 北海道研究会) 開催

事務局 青柳

先月号でお伝えした通り、「新 100 校プロジェクト」の北海道・東北地区活用研究会が 10 月 30 日、札幌サンプラザを会場にコンピュータ教育開発センター(CEC)、情報処理振興事業協会(IPA)、ACE、NCF の共同で開催されました。

通産・文部省共管のこのプロジェクトは、年に 1 回の全国規模の成果発表会の他に、各地区ごとの活用研究会を開いていますが、ACE として協力するのは初めてです。発表や参加は新 100 校参加校に限定しない、という CEC さんの意向を受けて、道内での発表者選出や動員に対して全面的にご協力させていただきました。

全体司会は武田支部長。午前中、まず基調講演では、稚内北星短大の丸山先生が「メディア統合の進展と教育」というテーマで、



おっ、丸山先生がマクルーハンのお話を始めたぞ。

統合されたメディアが情報教育にもたらす課題と、教育制度そのものに与える変革の可能性について、こっそりまったりとお話くださった後、標茶中の村田城司先生が「学校ネットワーク構築の実際」と題して、標茶町インターネットプロジェクトに関わってきたここ最近の苦労を特別発表し、会場は聞くも涙、語るも涙の感動に包まれました(真実は村田先生の報告にて)。

休憩をはさんで午後の部。北海道地区からは、100 校の顔・札幌幌南小の藤村先生が、ごみ・リサイクル問題を中心とした国際環境教育プロジェクトの取り組みを通しての「人とのつながりの中で学ぶ温かいネットワーク利用学習」について発表。続いて旭川東鷹栖中の大阪先生は、前任のトマム中での米・アスペンとの交流、東鷹栖中に移ってからの「バーチャル時差体験」や旭川市の副読本の CD-ROM 化の取り組みを報告し、最後に大成高の入澤先生が、全校生徒 50 名の小規模校で着実に進んでいる、デジタルメ



盛況です。ホテルの宴会場で、久々研究会らしい雰囲気

ディアを活用したコミュニケーション能力の育成について発表しました。

また、東北地区からは岩手・一関桜町中の石澤先生が草の根レベルの地域情報化支援活動について、宮城・東北学院中高の名越先生は盲学校を含めたオンライン・ディベートの取り組みについて、それぞれ発表しました。お二人とも若く活力にあふれた先生(20 歳代ですね)

で、「おじさん集団」ACE 北海道負けてられないぞ、という感を強く持ちました。

それぞれの発表はすべて、先生が学校で積み重ねてきた実践に裏打ちされた説得力のある内容で、会場を埋めた 70 名以上の参加者の皆さんも、それぞれの実状に対して何らかのヒントを持ち帰れたことと思います。終了後の懇親会では発表の先生方も



あーん。むっちゃん先生原稿は次回ね。

参加いただき、CEC、ACE、NCF 入り交じっての意見交換が夜遅くまで続きました。新 100 校プロジェクトは来年度以降も何らかの形で継続していくようで、今回のようにプロジェクト内に閉じない研究会や、他校と連携した活動が増えてくると思います。ACE としても志を同じくするプロジェクトとは積極的に関わっていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

■ (CEC や新 100 校プロジェクトについてのホームページ)
<http://www.cec.or.jp/CEC/>

Doing98 の成果 ＜ 道都大学大学祭顛末記 ＞

道都大学短期大学部 野口光孝
nogu@netfarm.ne.jp

10月9日から3日間の日程で道都大学大学祭が開催されました。一部の方にはお伝えしていましたが、これに深く関わってありました。この数ヶ月、イベント学部地域コミュニティー学科人間行動学コースの日々を送っていましたが、無事終了することのできた今、編集会議を欠席した言い訳も含めて大学祭の報告をしたいと思います。

さて、ここ数年学生の大学祭はなれが進んでおり、大学祭実行委員会組織をはじめ、一握りの有志がステージイベントや模擬店を行うのみで、学内展示の出典団体や地元北広島市民の参加も減少傾向にあり、いわゆるお祭りのにぎわいとは随分かけ離れた状況になっていました。世の中のトレンドが変化しているように学生の気質や興味も変わってきていることは間違いありませんが、何かを作っていくことや、プロセスを楽しむというあたりの心意気をもった学生があまりにも少なくなっていることはとても寂しいことであります。ただしこれは道都大学に限った話ではないようで、5月に学会で富山を訪れたとき、上越教育大の小川先生、富山大学の向後先生とお話したんですが、彼らも大学祭の活気のなさを指摘されていました。学生が均一化してきておりリーダー格の人間が現れないことが影響しているのではないかと思います。確かに受け身の学生が多いことは事実です。なにもしないことが一番楽しいなんて学生もいるぐらいですから。でもそんなでいいの？自分の学生時代を振り返ると偉そうなことは言えないけど、もっと楽しかったぞ！！おじさんたちはもうみていられんぞ！！

そんな背景があって、今回の大学祭は例年とは違う形でスタートしました。道都大学祭のテーマはDoing98(Doing : Dohto Integra-



前夜祭にて開祭宣言する櫻井学長

tion for Next Generations 98 次世代への旅立ち)。サブテーマは「動と静」。大学祭は「表現の場であると共に北広島市民とのコミュニティ活性の場」であることを共通認識として「教職員もいっしょになって観客動員数2万人の大学祭を作ろう！！」という趣旨の企画書を由水先生と5月に作成し、教職員や学生に対して説明会を開きました。「そんな無理や」「大学祭は学生が作るものではないか」という意見が当然ながらでてきましたが、「今やろうとしていることは未来へ継承するための大がかりな手術。一緒にやろ

う。」との考えに賛同してくれた、後で実行委員長になった美術学部の3年生をはじめ、学生、教職員合わせ50人の実行委員会が誕生しました。こんな簡単に書いてますけど紆余曲折だらけでしたの(^^;;)・・・で、端折っちゃいますけど、それからは会議と事務作業の連続でありました。直前2週間は高校時代を彷彿させるものがありましたわい。

その結果、いろいろなことが実現できました。酒の解禁、市民ブースを含む70団体参加の展示・模擬店、地元チーム北広島と石狩市の石狩流星海によるよさこいソーランのジョイント、北広島市芸術文化ホールにおける市民文化講座「椎名誠講演会」、後夜祭の花火大会などなど。2万人にはちょっと手が届きませんでした(^^)、子供たちを含むたくさんの市民が参加し秋のお祭りを楽しんでくれました(お天気が良かったことが1番の理由とも言えるんですが)。そう、そして、あのPOEM新聞、雪祭り新聞を作ってきたマルチメディア研究部、情報処理研究部の連中は、大学祭実行委員会広報部として美術学部の学生とともに期間中大学祭新聞Web版を発行しました(<http://www.dohto.ac.jp/gakusai/index.html>でご覧になれます)。

さて、実行委員会は立ち上げから5ヶ月で実質1/3になってしまいました。組織をどのように強化し継続していくかが今後の課題です。しかしながら、成功体験をした学生がいて来年以降へつなげられそうな雰囲気できたことは明るい話題と言えます。とにかく・・・この時代、学生と教職員で作る大学祭ってのも乙じゃありません？

第50回 北海道技術・家庭科教育研究大会札幌大会でのTV会議システムとインターネットの活用とインターネット推進委員会の活動について

URL <http://onko.ncf.or.jp/gizyutu/>
北野台中学校 尾崎

札幌市の学校におけるインターネットに関する調査、研究、実験を目的とする組織の必要性が出てきたことから、札幌市教育研究協議会技術・家庭科部会にインターネット推進委員会が昨年設置されました。8名の委員は、今年から実質的な活動を始めました。その活動の一環として、今回の第50回北海道技術・家庭科教育研究大会札幌大会ではTV会議やインターネットを活用した実験を中心に、データの収集を行い、今後を見通した活動を始めました。

実験の概要

今回は、次の2点についての実験を行うこととしました。

- (1) インターネットを活用して研究大会の準備の様子や、当日の研究大会の様子をリアルタイムに静止画を転送するシステムや電子メールなどを活用し情報の伝達や交流、授業の速報を行うほか、各会場校で参加者がこれらの情報を閲覧できる設備を用意し、情報の公開を目指す。
- (2) TV会議システムを使って各会場校を結びリアルタイムに各会場の様子の中継する情報交流システムを構築。開会式から基調講演、各会場の教室の状況や授業の様子、分科会の様子などをインターネットを通して公開する。

近い将来学校にインターネット接続ができるようになった時に、授業での活用が可能なシステムを構築するための準備として位置づけることとして日々修行の毎日を過ごしました。

システム構成

1. TV会議システム利用し各会場を結んでの中継や会議 本部会場を中心に9カ所の会場を結び中継する。また、他会場の参加者との交流をはかる。



こちらは美香保中で行われた情報基礎の模様。

2. 画像転送システムを使った授業の中継と記録の保存(Web-note-clipの利用) 各会場の授業の様子や状況などの写真・解説などをWeb(ホーム)ページをどこからでも見ることが可能なシステムを構築する。

さらに、その情報に対してこれを見た遠方の参加者が感想や意見を述べられるシステムも加えてある。このシステムを利用することにより、当日研究会に参加できない先生も、インターネットで各会場の様子を知ることができる。

さらに、このホームページは研究大会の記録となり、後日必要な人が見ることができる。

このシステムと当日の様子は<http://onko.ncf.or.jp/gizyutu>で見ることが可能です。

3. Web(ホームページ)による研究授業に関する情報の公開

インターネット上にこの研究大会のWeb(ホーム)ページが開放されており、大会案内や準備段階の様子などの報告を行ってきました。準備状況や授業の計画内容・指導案なども見ることが出来るようになっていきます。今回の活動に関しては教育用に開放されたonkoサーバが大活躍したのは言うまでもありません。

4. インターネットメールを利用した在宅会議システム

授業の準備から技術的な問題の解決、研究紀要の作成までインターネットメールのメーリングリストを使い、話し合いを進める取り組みをしてきました。

この話し合いの中で出てきた課題で解決が困難な問題点は実際に会議を行って解決することとし、オンライン、オフラインの会議を通して研究授業の準備をすすめることができました。特にメールサーバを使わせて下さった村田先生、ほか、技術支援して下さい下さった皆さんありがとうございました。

将来的にインターネットがすべての学校に接続されたとき、非常に有効なシステムになることが実証されました。

研究大会での取り組みの目的

今回、これらのマルチメディアを活用したシステムを実験的なケースとして用い、21世紀を見通して、研究大会がどのような形で実施できるのかということの検証を各会場・遠隔地からの参加者に体験してもらおうと共に未来の研究会をイメージしてもらうことを目的と考えました。また解決すべき課題などを整理し、いつでもどこでも誰もが活用できるシステムの構築をはかりたいという目的で今回の取り組みは進められました。

今回の実験は、近い将来の社会で起こりうる現実を想定した基礎資料作成も目的としていたのである。今後、今回の成果が広く普及することを願っています。

ということでまじめな文章を書いていると疲れて来ましたので、裏話を少々。実は、この研究会のために涙ぐましい活躍をした先生がいます。一人はWeb作成を一手に引き受けた若手のぼーぶ安藤先生どうやら来年からは本格的な教員として活躍しそうです。もう一人は資料関係をWebで作成していった。浅井先生。彼には実は視聴覚教育連盟の研究授業も押しつけてしまった僕は悪い人。しかし、彼らは弱音を吐かず頑張りました。浅井先生の研究授業<http://onko.ncf.or.jp/enkaku/index.htm>は、メーカーの協力や社教センターの協力もあり、ISDN回線を使って遠隔授業が可能であるという成果も出せました。詳しくはWebで見てください。

今回の活動を通して多くの技術家庭科の教員が協力して作業を進める事ができました。時には深夜にまでわたる作業や実験。FTPって何? 画像の加工はどうするの? ということで、それぞれの先生のスキルもあがったようです。

リハーサルを兼ねた10月13日の札教研の研究会では、線が繋がらない、画像が送れない、フェニックスはハウリングを起こして温泉の中のような音と課題が盛りだくさんでしたが、当日は、フェニックスを使った開会式もWeb中継もリアルビデオもばっちり決まって? 当日200人以上のアクセスを頂きました。ACE支部長の武田先生はじめ協力頂いた皆さん本当にありがとうございました。今回の取り組みが打ち上げ花火にならないよう頑張らなくちゃ!!?

なお、11月12日にはACE北海道の半澤先生@祝梅小と尾崎が登別緑陽中の研究会の様子を<http://onko.ncf.or.jp/gizyutu/konet/ryokuyo/>からお届けします。

ACE-Net に新しい会議室登場 ～ ACE レポート ～

待ちに待った"MS-OFFICE98 for Mac"もACEの皆さんのお手元に届いたことと思います。残念ながら今回は教職員にのみ限定ということです。涙を飲んだ会員の皆さんごめんなさい。

さて、ACE-Netの方も徐々に全会員へのID発行が進行中です。それに先立ちまして、ACE-Netに新しい会議室が登場しました。「ACEレポート」がそれです。2月の幕張での総会の折にはPostenoが配付されましたが、このようにこれからもどんどん開発メーカーからのソフトの提供が見込まれます。これをただ使わせていただくのではなく、使ってみて教育用にどのような効果があるのか。互いに情報交換をする場にしようということでACE九州の吉富先生が提案このフォルダの開設となりました。

現在のところOFFICEが話題の中心ですが、皆さんどんどん使ってみてあーだこーだ感想をアップしましょうね。

バーチャル雪まつり

コラボレーション・スケジュール

バーチャル雪まつり 1999 事務局

少しずつ寒くなり、いよいよバーチャル雪まつりの季節がやってきましたね。皆さん、バーチャル雪まつり 1999 の雪像づくり、楽しみにしておいてください。

さて、コラボレーションとオフラインミーティングの日程を確認しておきましょう。

第 1 回コラボレーション

1 1 月 2 4 日 (火) ~ 2 7 日 (金)

この週末までにまずはみなさんアイデアやテーマをアップしてみましょう。ここであがったものをたたき台にして、

第 2 回コラボレーション

1 2 月 1 4 日 (月) ~ 1 8 日 (金) の週末までにさらに磨き上げたものをアップ。そして 1 2 月 1 9 日 (土) 札幌市ネットワークプラザで最終決定します。

詳細はホームページで確認してください。

<http://www.miceng.co.jp/VSF1999/>

小中学校のインターネット接続の旨い話

I I J 田中 真一

<mailto:s-tanaka@sapporo.iiij.ad.jp>

郵政大臣に野田聖子議員となり、小中学校のインターネット接続環境に対する業界への支援指示が相次いだ。電気通信事業者協会に対しては、大幅な割引制度の新設を要請され、これに従い I I J も学校向けダイヤルアップ接続サービスを急遽開始した。年間 3 万円の接続時間制限なしというものです。月額にすると 2,500 円で常時接続が可能であり、ルータを用いることで LAN 接続された各 P C からアクセス可能となります。ダイヤルアップ接続の形式なので電話料金がネックとなりますが、N T T では本要請に伴い、100 時間迄月額 9,000 円の INS64 k という学校向け割引サービスの開始を予定されています。

そこで試算してみたのですが、I I J の 2,500 円サービスとこの 9,000 円(100 時間)だけでは毎日 4 時間程度しか常時接続が出来ません。しかし用途を分けることで使用時間を分散できるのであれば各々 2 契約 (INS 2 本、I I J 2 契約) しても月額 23,000 円で済んでしまいます。また、2 本を束ねるサーバを用意し、それぞれの利用時間をサーバに管理させてしまうワザも可能でしょう。例えば、1 本のラインが 100 時間を超えそうになるとサーバはもう 1 本の INS をデフォルト接続させるように切り替えさせるといったものなどが考えられます。(この場合なら I I J 契約は 1 本で済みますね、しくしく) こうすると 1 日 8 時間 (2 5 日 / 月) は常時接続しても O K でしょう。学校における予算も年額で 3 0 万円以下で 64 k の常時接続が可能となります。但し通話できる距離が同一 MA までが 9,000 円の範囲となるらしいので、札幌から遠距離の学校の場合はまだ検討される余地があると思われます。このあたりは是非、具体的に郵政方向から指示が出ることを期待しつつ、確実に前進させていることを報告します。

編集後記

学園祭ねえ。僕が学生の頃はバブル後期で、企業も学校もとにかくもう派手なことだらけ。「ミスコン」で企業協賛取りまくって、あっちから 50 万、こっちから 120 万...。ロクでもない連中でした。まあ、それ呑んじゃったりはしなかったけど。ウッチャンナンチャンが司会をして松本典子 (今誰の奥さんだっけ) が歌のゲスト。いまでも結構鮮明に覚えてます。協賛取ったりイベントやったり、気がつくときでも似たような仕事をしているので、学生のうちはもっと楽しく遊んどけば良かったですね。(吉田)

いよいよ明日は平地にも雪が降りそうな気配ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。新 100 校活用研究会も盛会のうちに終了しました。強引に派遣依頼書など送りつけて皆さんにご迷惑をおかけしました。ごめんなさいね。ACE 北海道支部が旗揚げしてすでに数年の歳月が流れていますが、ここ最近は文部省やら CEC などなどのご後援を取り付けるようになりました。しかし、スタートからの反骨の精神はちっとも薄れちゃいないです。VSF もいよいよスタートし、支部総会も近づいてきています。会員数も 100 名を有に越える大団体となりました。単なるイベント屋に終始することなく、2 1 世紀 2 2 世紀をめざし子供達によりよい教育環境を準備できるようにがんばりましょう!(荒島)

めっきり寒くなりましたね。明後日からは稚内に行って囲碁の速報をするのですが、どうやら雪の予報ですね。ううう、つらいよう...。せめて、山田先生と熱燗で一杯やって、慰労してもらおう。そうだ、稚内北星にもおじゃまして、丸山先生がいなかったら植田先生に会ってこよう。教育に携わるものは、エジソンとマクルーハンの「いいとこどり」を目指すのだ...。丸山先生、ためになりました。(青柳)

イヤー、やっと研究大会が終わったと思ったら次々にまた仕事が入ってくる毎日です。貧乏暇なしということは充実しているってことですね。毎日毎日いったい自分は何のためにこんなことやっているのなんて考える余裕もなく、ただ「たこ」になっているのですが、昨日室蘭で食べた「おおだこそば」はおいしかった。たこがたこを食う、共食いをしてしまうのでした。そういや、もうすぐ雪が降りますね。雪が降るとまた楽しみも増えるのですね。1 年が凄く早さで動いているそう感じてしまうのは僕だけでしょうか。(尾崎)

まったく、忙しくて仕事をする暇もない。休講の連絡をする時間もないくらいで、当日突然の休講では学生に申し訳ないから、全部講義をしている本年度だ。そんな今年も、あと 2 ヶ月となってしまう。いったい私は何をしているのか。どこへ向かって歩もうとしているのか。教育界の改革の話があちこちで出はじめている。家庭と現場と、地域と社会と、子供と親と先生との間の情報のコミュニケーションが大切で、それに取り組むことが全てのスタートになる。そこでデジタルメディアを活用する。そういうことに参加し活用した経験を持っていることが、情報社会の先生としての最も重要な経験になるのだ。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1998 年 11 月 2 日発行